

文部科学大臣 殿

〔設置者の名称〕 学校法人 文教大学学園

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 野島 正也

大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	文教大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	<input checked="" type="radio"/> 大学・短期大学・高等専門学校・専門学校)
大学等の所在地	越谷キャンパス 埼玉県越谷市南荻島 3337 湘南キャンパス 神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100 東京あだちキャンパス 東京都足立区花畑 5-6-1
学長又は校長の氏名	中島 滋
設置者の名称	学校法人 文教大学学園
設置者の主たる事務所の所在地	東京都品川区旗の台 3-2-17
設置者の代表者の氏名	野島 正也
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/higher_education_application/

※ 以下のいずれかのにレ点 () を付けて下さい。 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第5条第1項に基づき確認申請書を提出します。

 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第5条第3項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべてのにレ点 () を付けて下さい。 この申請書(添付書類を含む。)の記載内容は、事実に相違ありません。 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律(以下「大学等修学支援法」という。)に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	法人事務局総務部法人総務課	03-5686-8577	jinji-bunsyo@stf.bunkyo.ac.jp
第2号の1	法人事務局総務部法人総務課	03-5686-8577	jinji-bunsyo@stf.bunkyo.ac.jp
第2号の2	法人事務局総務部法人総務課	03-5686-8577	jinji-bunsyo@stf.bunkyo.ac.jp
第2号の3	法人事務局総務部法人総務課	03-5686-8577	jinji-bunsyo@stf.bunkyo.ac.jp
第2号の4	法人事務局総務部法人総務課	03-5686-8577	jinji-bunsyo@stf.bunkyo.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	F111310102860	学校名	文教大学
設置者名	学校法人文教大学学園		

I. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	13,193,281,570円	12,921,207,456円	272,074,114円
申請2年度前の決算	12,948,625,918円	12,632,494,557円	316,131,361円
申請3年度前の決算	12,905,597,095円	12,629,677,418円	275,919,677円

I. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	15,795,769,416円	4,631,435,862円	11,164,333,554円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	7,620人	8,405人	110%
前年度	7,620人	8,197人	107%
前々年度	7,620人	8,134人	106%

大学・短期大学・高等専門学校で、II. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について

(A)又は(B)のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況(A)学校基本統計を利用する場合

	卒業生数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況			#DIV/0!

・申請校の直近の進学・就職率の状況(B)学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況			#DIV/0!

(I. ②の補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
特定資産	第3号引当特定資産、前田学術研究奨学資金引当特定資産、退職給与引当特定資産	2,529,740,519円
その他の固定資産	有価証券	40,094,540円
流動資産	現金預金	13,225,934,357円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
固定負債	長期借入金、長期未払金	3,043,220,033円
流動負債	短期借入金、未払金	1,588,215,829円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

【様式】第2号の1～4—①

大学・短期大学・高等専門学校

(注) 様式第2号の1—①

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1—②を用いること。

(注) 様式第2号の2—①

※国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2—②を用いること。

(注) 様式第2号の4—①

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4—②を用いること。

(申請書を作成する際には、1頁目を削除すること)

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	文教大学
設置者名	学校法人 文教大学学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
教育学部	学校教育課程	夜・通信	0	2	15	17	13		
	発達教育課程	夜・通信			14	16	13		
	心理教育課程	夜・通信			5	10	15	13	
人間科学部	人間科学科	夜・通信		6		8	14	13	
	臨床心理学科	夜・通信			8	14	13		
	心理学科	夜・通信			8	14	13		
文学部	日本語日本文学科	夜・通信		14		0	14	13	
	英米語英米文学科	夜・通信			0	14	13		
	中国語中国文学科	夜・通信			0	14	13		
	外国語学科	夜・通信	0		14	13			
情報学部	情報システム学科	夜・通信	0		14	14	13		
	情報社会学科	夜・通信		14	14	13			
	メディア表現学科	夜・通信		14	14	13			
健康栄養学部	管理栄養学科	夜・通信	0	14	14	13			

国際学部	国際理解学科	夜・通信	0	4	10	14	13	
	国際観光学科	夜・通信			10	14	13	
経営学部	経営学科	夜・通信	0		14	14	13	
(備考) ・教育学部 発達教育課程…完成年度 2023 年 ・教育学部 心理教育課程…2020 年 4 月学生募集停止								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学園 Web サイトに PDF ファイルを掲載・公表。
<https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/publicinfo/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名	なし
(困難である理由)	

様式第 2 号の 2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第 2 号の 2-②を用いること。

学校名	文教大学
設置者名	学校法人 文教大学学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園 Web サイトに掲載・公表。
<https://www.bunkyo.ac.jp/academy/information/organization/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株) 電通テック 顧問	2021/4/1 ～2025/3/31	広報戦略・学園校友会
非常勤	(株)セブンシーズ代表 取締役社長	2021/4/1 ～2025/3/31	組織運営体制への チェック機能

非常勤	弁護士	2021/4/1 ～2025/3/31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(株) 文教センター 取締役	2021/4/1 ～2025/3/31	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	文教大学
設置者名	学校法人 文教大学学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>全ての授業科目について授業計画(シラバス)を作成し、Webで公表している。授業計画を確実に計画・公表するために、Webシラバスシステムの入力必須項目として、授業の方法及び内容・到達目標・成績評価の方法や基準を入力する欄を設け、さらに一般授業(ゼミナール・教育実習等を除く)には15回分の授業計画を入力する欄を設けている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.bunkyo.ac.jp/guide/syllabus.htm
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>学修の成果にかかる評価に当たっては、授業ごとにシラバスであらかじめ明示し、その方法・基準に基づき単位を与えている。</p>	
<p>例) 成績評価の方法 「授業への出席を基本として、期末課題70%、授業内の提出物や参加態度30%の割合で、総合的に評価する。」</p>	
<p>例) 成績評価の基準 「AA(100~90点)(自分なりの問題意識をもち、課題を的確に理解し、授業に積極的に参加している。授業の目的が十分達成されている)、A(89~80点)(自分なりの問題意識をもち、課題を的確に理解し、授業に積極的に参加している)、B(79~70点)(授業参加、提出物については問題ないが、課題の理解力がやや不足している。)、C(69~60点)(授業に参加しているが、課題の理解力が不足している)」</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>全学部共通の GPA 計算式を定め、学生向けに配布している冊子「履修の手引き」の中で公表している。</p> <p>GPA・成績分布データを元に成績不良者を把握し、あらかじめ作成・公表した一定の基準を下回る学生に対して個別面談を行うなどの具体的指導に生かしている。</p> <p>【成績評価の換算】 AA=4 ポイント、A=3 ポイント、B=2 ポイント、C=1 ポイント D (不合格)・E (欠席)・F (無資格) =0 ポイント</p> <p>【GPA算出方法】 GPA $= \frac{(4 \times \text{AA 修得単位数} + 3 \times \text{A 修得単位数} + 2 \times \text{B 修得単位数} + 1 \times \text{C 修得単位数})}{\text{履修登録単位数の総合計 (評価D・E・Fを含む)}}$</p>															
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.bunkyo.ac.jp/about/university/rules/														
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定に当たっては、学部・学科それぞれにおいて「学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー」を策定し、Web 公開している。</p> <table border="1" data-bbox="320 1238 1315 1541"> <tr> <td>教育学部</td> <td>https://www.bunkyo.ac.jp/department/education/policy/</td> </tr> <tr> <td>人間科学部</td> <td>https://www.bunkyo.ac.jp/department/human_sciences/policy/</td> </tr> <tr> <td>文学部</td> <td>https://www.bunkyo.ac.jp/department/language_and_literature/policy/</td> </tr> <tr> <td>情報学部</td> <td>https://www.bunkyo.ac.jp/department/information/policy/</td> </tr> <tr> <td>健康栄養学部</td> <td>https://www.bunkyo.ac.jp/department/health/policy/</td> </tr> <tr> <td>国際学部</td> <td>https://www.bunkyo.ac.jp/department/international_studies/policy/</td> </tr> <tr> <td>経営学部</td> <td>https://www.bunkyo.ac.jp/department/business/policy/</td> </tr> </table> <p>各学部・学科で定めた「学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー」にのっとり、卒業の認定を実施している。</p>		教育学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/education/policy/	人間科学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/human_sciences/policy/	文学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/language_and_literature/policy/	情報学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/information/policy/	健康栄養学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/health/policy/	国際学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/international_studies/policy/	経営学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/business/policy/
教育学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/education/policy/														
人間科学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/human_sciences/policy/														
文学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/language_and_literature/policy/														
情報学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/information/policy/														
健康栄養学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/health/policy/														
国際学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/international_studies/policy/														
経営学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/business/policy/														
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/three_policies/														

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	文教大学
設置者名	学校法人 文教大学学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.bunkyo.ac.jp/academy/information/finance/
収支計算書又は損益計算書	https://www.bunkyo.ac.jp/academy/information/finance/
財産目録	https://www.bunkyo.ac.jp/academy/information/plan_report/
事業報告書	https://www.bunkyo.ac.jp/academy/information/plan_report/
監事による監査報告(書)	https://www.bunkyo.ac.jp/academy/information/plan_report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書 対象年度:2024)
公表方法:Web公開 https://www.bunkyo.ac.jp/academy/information/plan_report/file/file_2024_business_plan.pdf
中長期計画(名称:学園経営戦略中期経営計画 『BUNKYO ACTION PLAN2025』 対象年度:2021-2024年度)
公表方法:Web公開、冊子配布 https://www.bunkyo.ac.jp/academy/information/action_plan2025/index.ph

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:Web公開 https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:Web公開 大学基準協会による評価結果ならびに認証評価結果 https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/evaluation/file/file_kekka_university_2022.pdf
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

教育学部
<p><u>教育研究上の目的</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/purpose/ 教育学部は、本学の建学精神に則って、有為な教育者を育成することを目的とする。</p> <p>【学校教育課程】 学校教育に関する知識と技術を基盤とする教育及び研究を行い、現代社会の中で使命感と情熱を持って主体的に学び続け、教育を創造する資質と能力を備えた学校教員を養成する。</p> <p>【発達教育課程】 教育学・保育学、心理学に関する知識と技術を基盤とする教育及び研究を行い、乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの発達の連続性と多様性を踏まえ、心身の連関と人間形成の基盤の育成を担う教育者を養成する。</p> <p>【心理教育課程（2020年4月学生募集停止）】 教育学、心理学、保育学の3領域に関する知識と技術を基盤とする教育及び研究を行い、乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの「心の教育」を担う人材を養成する。</p>
<p><u>卒業又は修了の認定に関する方針</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/department/education/policy/ 教育学部は、専門家としての「教育力」と「人間力」を備えた教育者の養成を目的とし、各課程の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に求められる社会の要請を理解し、様々な教育課題に関して、幅広い教養と教育に対する深い見識を持ち、家庭・学校・地域社会と協働しながらその解決を図る力 2. 子供の可能性を信じ、教育者としての高い志を持ち、その責務を果たそうとする使命感 3. 教育者として求められる確かな専門性と実践的指導力 4. 時代の変化や自らのキャリアステージに応じて、果たすべき役割について考え、課題を発見、解決しようとしながら、教育者として生涯にわたって学び続けようとする強い意志
<p>【学校教育課程】 学校教育課程においては、児童・生徒に関する教育学・心理学・教科の専門的知識と指導法等の学びを基盤とした教員としての実践力</p> <p>【発達教育課程】 発達教育課程においては、乳幼児から青年期に至るまでの発達段階に応じて、教育学・心理学・保育学を中心に社会福祉、特別支援教育の学びを基盤とした保育士・教員としての実践力</p> <p>【心理教育課程】 心理教育課程においては、乳幼児・児童に関する教育学・心理学・保育学の学びを基盤とした保育士・教員としての実践力</p>
<p><u>教育課程の編成及び実施に関する方針</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/department/education/policy/ 人間愛の精神の下、ディプロマ・ポリシーで示した資質能力を備えた教育者の養成を目指し、次の方針でカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野に立ち、教育についての専門知識と実践的スキルを活用できる力を身に付けさせるために、教育や社会に対する視野を広げる科目、教育の基礎理論や基礎

<p>技能等に関する科目、教科の内容に関する科目及びその指導法に関する科目を網羅し、体系的に配置し、適切な履修指導を行う。</p> <p>2. 教育や社会に対する視野を広げ、自ら学び、課題を発見、解決する能力を育成することを目的とした科目を初年次から配置する。</p> <p>3. 理論と実践を融合させ、教育に対する見識と技能を高めることを目的に、教育実践の在り方を検討する課題解決型授業や学外での体験と教育理論とを連関させる演習型授業等を多く取り入れる。</p> <p>4. 学校教育課程においては、小学校の教科内容を習得したうえで各教科の指導方法を学修する科目（初等教育科目）、各専修で取得できる教科の中学校・高等学校教員免許に応じて教科内容と指導法を学修する科目（中等教育科目）、教育学や心理学等の教育の基礎理論や基礎技能、道徳や特別活動、生徒指導等の教科外の指導法を学修する科目（教職科目）を置き、教員としての資質を養う。</p> <p>5. 発達教育課程においては、小学校の教科内容を習得したうえで各教科の指導方法を学修する科目（初等教育科目）、幼稚園の教育内容や指導法に関する科目（幼稚園科目）、保育の理論及び保育の内容や方法に関する科目（保育士科目）又は特別支援学校教員免許に応じて当該領域について学修する科目（特別支援教育科目）、教育学、心理学等の教育の基礎理論や基礎技能に関する科目等を置き、教員や保育士としての資質を養う。</p>
<p>【学校教育課程】 小学校の教科内容を習得したうえで、各教科の指導方法を学修する科目（初等教育科目）、各専修で取得できる教科の中学校・高等学校教員免許に応じて教科内容と指導法を学修する科目（中等教育科目）、教育学や心理学等の教育の基礎理論や基礎技能、道徳や特別活動、生徒指導等の教科外の指導法を学修する科目（教職科目）を置き、教員としての資質能力を養う。</p> <p>【発達教育課程】 教育学、心理学、保育学に関する基礎理論およびそれらと教育・保育実践との関連を深く理解し、乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの発達の連続性と多様性を踏まえて、心身の連関と人間形成の基盤を育成するための専門性と実践力</p> <p>【心理教育課程】 心理学やカウンセリング等に関する科目、教育の基礎理論に関する科目、幼児教育・保育に関する科目を必修科目とし、乳幼児や児童理解を深める科目、教育内容や指導法に関する科目、教育や保育の理論及び内容や方法に関する科目等を選択科目として、取得を目指す免許や資格、進路等に応じて学生が選択的に履修できるようにし、心の教育を担う教員や保育士としての資質能力を養う。</p>
<p><u>入学者の受入れに関する方針</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/department/education/policy/</p> <p><求める学生像></p> <p>教育学部は、次のような学生の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子供の健やかな発達を望み、教育を通して社会に貢献したいと強く願っている人 2. 教育者に必要な知識と実践力を身につけようとしている人 3. 目指す教育者像の実現に向かって学修し、努力する意欲を持っている人 4. 社会や時代の変化に関心を持ち、柔軟に対応していこうとする人
<p>【学校教育課程】</p> <p><求める学生像></p> <p>小学校・中学校・高等学校等、教育全般に関わる仕事に関心を持ち、そのための専門的な知識や実践力を身に付ける場を求めている人</p> <p><学んでほしい内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学部で学ぶために必要な高等学校までの基本的で幅広い知識と技能 2. 基本的な学習態度や生活習慣 3. 積極的に他者と交流するためのコミュニケーション能力や協調性

4. 教育や支援活動に取り組むために必要な粘り強さと責任感

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本課程が求める学生像を理解し、将来のビジョンに沿って意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類、プレゼンテーション(一部専修においては実技課題を含む。)と質疑応答(面接)によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲を中心に、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況などを加味して評価します。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接等によって(一部専修においては実技試験も含む。)、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力や実能力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

○一般選抜

本課程での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。全国・A日程・C日程入試では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します(一部専修においては実技課題を含む。)

【発達教育課程】

<求める学生像>

子供の発達を軸として、特別支援教育や保育・幼児教育・初等教育等に関わる仕事に関心を持ち、そのための専門的な知識や実践力を身につける場を求めている人

<学んできてほしい内容>

1. 教育学部で学ぶために必要な高等学校までの基本的で幅広い知識と技能
2. 基本的な学習態度や生活習慣
3. 積極的に他者と交流するためのコミュニケーション能力や協調性
4. 教育・保育や支援活動に取り組むために必要な粘り強さと責任感

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本課程が求める学生像を理解し、将来のビジョンに沿って意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類、プレゼンテーションと質疑応答(面接)によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲を中心に、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況などを加味して評価します。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心、コミュニケーション・スキルなどを評価します。

○一般選抜

本課程での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。全国・A日程・C日程入試では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、

<p>大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。</p> <p>【心理教育課程】 <求める学生像> 心理教育課程においては、保育所・幼稚園等、保育や幼児教育に関わる仕事に関心を持ち、そのための専門的な知識や実践力を身につける場を求めている人</p>
<p>人間科学部</p>
<p><u>教育研究上の目的</u> https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/purpose/ 人間科学部は、本学の建学精神に則って、人間の総合的な理解と人間生活の向上に必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。</p> <p>【人間科学科】 現代文化、人間教育、社会福祉の3領域を教育及び研究の幹とし、人間性の総合的理解を通じ、教員や福祉の専門家を始めとして、人間社会に対する深い実践力・洞察力を持った幅広い分野で活躍できる人材を養成する。</p> <p>【臨床心理学科】 心理学の応用・実践分野として、家庭、学校、医療、福祉、司法、産業及び地域社会の諸問題へのアプローチを含む広義の臨床心理学を探究し、現代社会が直面している心のケアに関する専門的な援助ができる人材を養成する。</p> <p>【心理学科】 人間の科学的・客観的理解を目的として、基礎心理学並びに応用心理学である健康心理学・ビジネス心理学に関する教育及び研究を行い、実践場面に適用できる人材を養成する。</p>
<p><u>卒業の認定に関する方針</u> https://www.bunkyo.ac.jp/department/human_sciences/policy/ 人間科学部は、人間を多面的に捉え、総合的に理解することにより、人間生活を向上させるために必要な理論的、実践的専門知識と技術を身に付け、各学科の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <p><修得させるべき能力></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の教育理念である「人間愛」の精神を体得し、人を尊重し、人からも信頼される人間関係を構築できる対人関係能力。 2. 総合科学としての人間科学において、初歩的実践に活用できるレベルの知識と技能を身につけ、かつ自分自身で判断し行動できる科学的態度。 3. 社会に出てから汎用性の高い問題解決能力（ジェネリックスキル）。 <p><達成水準> シラバスで各科目について到達目標を明示し、総合的、客観的に達成度を確認・評価します。4年間の学修の集大成として、全体の教員や学生に開かれた卒業研究の「発表会」を行い、科学的態度と対人関係能力を確認します。</p> <p>【人間科学科】 人間科学科は、心理学・社会学・教育学・社会福祉学・文化人類学・スポーツ健康科学・コミュニティ学などの多角的視点から、人間を有機的・総合的に理解することにより、人間生活を向上させるために必要な理論的かつ実践的な知識と技能を身に付け、学科の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <p><修得させるべき能力></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合科学としての人間科学において、心理学・社会学・教育学・社会福祉学・文化人類学・スポーツ科学などの複数の学問領域から人間を理解するための知識および技能。

2. 本学の教育理念である「人間愛」の精神を体得し、人を尊重し、人からも信頼される人間関係を構築できる対人関係能力。
3. 自分自身で判断し行動できる科学的態度。
4. 社会に貢献参画する知識および技能。
5. 汎用性の高い問題解決能力（ジェネリックスキル）。

<その達成水準>

1. 複数の学問領域の概念等を用いて人間を総合的に理解することができる。
2. 人間科学に関する知識や技能を、日常生活の中で自己や他者の人間生活の向上のために活用し、実践することができる。
3. 人を尊重し、他者からも信頼される人間関係を構築できる。上記を各科目のシラバスに明示された到達目標に照らして総合的、客観的に達成度を確認、評価します。4年間の学修の集大成として、教員や学生に開かれた卒業研究の「発表会」を行い、科学的態度と対人関係能力を確認します。

【臨床心理学科】

臨床心理学科は、こころのメカニズムを解明し、当事者の主観的経験を考慮しつつも相互行為の中から体験的に学ぶ「臨床の知」を重視した教育を行います。そのような教育方針の下で、知識と技能を身に付け、学科の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

<修得させるべき能力>

1. 臨床心理学に関わる幅広い専門的知識。
2. 人間のさまざまな生活領域におけるこころの問題に対処できる実践的能力、態度、技法。
3. 人間の心理及び行動を総合的に理解するための知識。
4. 課題発見と問題解決のための技法の修得。
5. キャリア形成に係る知識、理解、汎用性の高い問題解決能力（ジェネリックスキル）。

<その達成水準>

1. 臨床心理学的な評価及び分析ができる。
2. こころの問題に対処する相談、助言、指導、援助ができる。
3. 人間の心理及び行動を総合的に理解できる。
4. 自ら課題を設定し、その問題解決を図ることができる。
5. 自らのキャリアについて、情報収集、計画立案、行動、評価を行うことができる。

【心理学科】

心理学科は、人のこころのはたらきを理解することにより、自分自身で判断し行動できる科学的態度や、さまざまな場面で実践的に活用できる、幅広い教養と心理学的知識、技術を身に付け、学科の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

<修得させるべき能力>

1. さまざまな場面で活用できる実践的な心理学的知識と技能。
2. 自分自身で判断し行動できる科学的態度。
3. 協働性を実現しうる対人関係能力。
4. 汎用性の高い問題解決能力（ジェネリックスキル）。

<その達成水準>

1. 人のこころと行動を科学的に理解できる。
2. 心理学の実用的な応用ができる。
3. 人を尊重し、人からも信頼される人間関係を構築できる。上記を各科目のシラバスに明示された到達目標に照らして総合的、客観的に達成度を確認、評価します。4年間の学修の集大成として、全体の教員や学生に開かれた卒業研究の「発表会」を行い、科学的態度と対人関係能力を確認します。

教育課程の編成及び実施に関する方針

https://www.bunkyo.ac.jp/department/human_sciences/policy/

人間科学に関する実践的専門知識と技術を身につけさせるために、次の方針でカリキュ

ラムを編成します。

1. 人間を科学的・総合的に理解するため、心理学・社会学・教育学・社会福祉学・文化人類学などの科目を、体系的に修得できるように初年次教育、教養教育、専門教育の配列や履修指導を重点的に工夫する。

2. 専門的知識にとどまることなく、課題発見や問題解決のための方法論を修得し、幅広い教養と人間社会への深い洞察力をもった人材育成のためのカリキュラムを構成する。

3. 多様な学生の進路に合わせて専門的知識や技術を修得できるように、カリキュラムの運用面で十分な配慮をし、学修成果の評価を適切に行う。卒業後の進路については、キャリア教育や進路指導を計画的に行う。

4. 1年次から4年次まで、演習・実験・実習グループに参加させ、アクティブ・ラーニングと学修成果のフィードバックを通じて知的修練と相互信頼・相互啓発の基礎を築けるような良好な修学環境を維持する。

5. 学生が学んだ専門知識を、より広い視野でとらえなおせるように、実験・実習科目や海外研修を積極的に取り入れる。

【人間科学科】

人間科学に関する実践的専門知識と技能を身につけさせるために、次の方針によりカリキュラムを編成します。

1. 人間を科学的・総合的に理解するため、心理学・社会学・教育学・社会福祉学・文化人類学・スポーツ健康科学・コミュニティ学などの科目を、体系的に習得できるように初年次教育、教養教育、専門教育の配列や履修指導を重点的に工夫する。特に、初年次に実践的・具体的なテーマの科目を配置することで、基礎的な理解と同時に、人間科学に関する問題や関心事に対してアクティブラーニングを通して学修意欲・成果を高められるように配慮する。

2. 専門的知識にとどまることなく、課題発見や問題解決のための方法論を習得し、幅広い教養と人間社会への深い洞察力をもった人材育成のためのカリキュラムを構成する。

3. 多様な学生の進路に合わせて専門的知識や技能を修得できるように、カリキュラムの運用面において十分な配慮をする。学修成果の評価を適切に行い、卒業後の進路については、キャリア教育や進路指導を計画的に行う。

4. 1年次から4年次まで、演習等において少人数授業を配置し、アクティブラーニングと学修成果のフィードバックを通じて知的修練と相互信頼・相互啓発の基礎を築けるような良好な修学環境を維持する。学生が学修した専門知識等を、より広い視野で捉えるために、人間科学の知識や技能を日常生活の中で活用する機会を提供するため、体験型・社会参加型の学習プログラムを積極的に取り入れる。

【臨床心理学科】

臨床心理学に関する理論的、実践的知識と技法を身につけさせるために、次の方針によりカリキュラムを編成します。

1. 臨床心理学に基づいた人間理解を基盤に置き、家族、教育、保健医療、福祉、司法、産業などに関する科目を系統的に配列することで、幅広い専門的知識を学習させる。

2. 知識にとどまることなく、こころの問題に対処できるようになるための実践的科目を多数開講し、実践的援助力の増進を図る。前述1と合わせて、公認心理師等の資格取得に対応した科目構成とする。

3. 幅広い教養を身につけ、人間の心理及び行動を総合的に理解できるカリキュラム構成とする。

4. 課題発見や問題解決のための方法を自ら実践できるように演習科目を系統的に配列する。

5. 進路につながるようなキャリア教育、キャリア形成、スキルトレーニングの科目を配置する。前述4と合わせてジェネリックスキルを獲得できる科目配列とする。

【心理学科】

人間科学の基礎の上に、心理学に関する理論的、実践的知識と技術を身につけさせるために、次の方針によりカリキュラムを構成します。

1. 基本的なところと行動を科学的に理解するために、基礎心理学科目を基盤に置き、加えて研究法、実験、統計法などの科目を系統的に配列する。
2. 実用的な応用が身につくように、応用領域の心理学科目および実習科目を開講し、アクティブラーニングと学修成果のフィードバックを通じて知的修練と相互信頼、相互啓発の基礎を築けるような良好な就学環境を維持する。
3. 幅広い教養を身につけ、人のこころと行動を総合的に理解できる深い洞察力をもった人材育成のためのカリキュラム構成とする。
4. 課題発見や問題解決のための方法を自ら実践できるように演習科目を系統的に配列する。

進路につながるようなキャリア教育、キャリア形成の科目を配置する。前述 1 および 2 を合わせて、公認心理師等の資格取得に対応した科目構成とする。

入学者の受入れに関する方針

https://www.bunkyo.ac.jp/department/human_sciences/policy/

<求める学生像>

人間科学部は、次のような学生の入学を期待しています。

1. 高校等で継続的に修学の努力を重ね、一定の基礎的・基本的な知識・技能を身につけた人
2. 人間の多様な営みに関心を持ち、その営みを探求する意思と思考力を持つ人
3. 学校生活、あるいは学校外の地域活動、文化活動、スポーツ活動などの実践体験をもち、実際生活を通して人間社会への関心と主体的に学習に取り組む姿勢を持つ人

<学んでほしい内容>

1. 国語・英語・数学・理科・社会は、学部での学修の基礎となるものなので一定水準以上の学力が必要です。
2. その他の教科についても、論理的思考力、豊かな表現力、現実を的確にとらえた実践力などを涵養する観点から、幅広く学修していることが望まれます。

【人間科学科】

<求める学生像>

1. 高校等で継続的に修学努力を重ね、一定の基礎的・基本的な知識・技術を身につけた人
2. 人間の多様な営みに関心を持ち、その営みを探求する意思と思考力を持つ人
3. 学校生活、あるいは学校外の地域社会において、ボランティア活動、文化芸術活動、スポーツ活動などの実践体験をもち、生活を通して人間社会への関心と主体的な学習に取り組み、社会への参加を試みる姿勢を持つ人

<学んでほしい内容>

1. 国語、英語、数学、理科、社会は、学科における学修の基礎となるものなので一定水準以上の学力が必要です。
2. その他の教科についても、論理的思考力、豊かな表現力、現実を的確にとらえた実践力などを涵養する観点から、幅広く学修していることが望まれます。

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類およびプレゼンテーション（質疑応答含む）によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、学修意欲、将来のビジョンを中心に、リーダーシップ、論理性、創造性、コミュニケーション力などを多角的に評価します。また、地域社会が直面する課題を解決するために、多様な人々と協働し社会参画する強い意志を持つ人を求めます。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を

持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類及び小論文、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに、基礎学力を評価します。

○特別入試

本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および論述試験、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、大学・社会等での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

【臨床心理学科】

<求める学生像>

1. 臨床心理学に対する強い関心と学習意欲を持つ人
2. こころの問題について援助しようとする意欲と思考力を持つ人
3. 人間の幅広い側面に興味を持ち、コミュニケーションを図ろうとする意欲のある人
4. 臨床心理学の専門性を生かして社会に貢献したいと志望する人

<学んでほしい内容>

1. 基本的な生活態度、学習態度
2. 人と交流しようとするコミュニケーション態度
3. 読解力と表現力を含む基礎学力

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類およびプレゼンテーション（質疑応答含む）によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、学修意欲、将来のビジョンを中心に、コミュニケーション力、表現力、共感力、高等学校等での学習・諸活動の状況などを総合的に評価します。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに、基礎学力を評価します。

○特別入試

本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、大学・社会等での学

習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

【心理学科】

<求める学生像>

1. 高校等で継続的に修学努力を重ね、一定の基礎的・基本的な知識・技術を身につけた人
2. 心理学に対する関心と主体的に学習に取り組む姿勢を持つ人
3. 人の幅広い側面に興味を持ち、実際の生活を通して人間社会への関心とコミュニケーションを図ろうとする意欲のある人

<学んでほしい内容>

1. 科学的態度を習得する上で必要となる国語、英語、数学、理科、社会など学科における学修の基礎となる科目の一定水準以上の基礎学力が必要です。
2. その他の教科についても、論理的思考力、豊かな表現力、現実を的確にとらえた実践力などを涵養する観点から、幅広く学習していることが望まれます。

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類およびプレゼンテーション（質疑応答含む）によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、学修意欲、将来のビジョンを中心に、コミュニケーション力、表現力、問題解決力、高等学校等での学習・諸活動の状況などを多角的に評価します。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに、基礎学力を評価します。

文学部

教育研究上の目的

<https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/purpose/>

文学部は、本学の建学精神に則って、文学及び語学を通して、日本及び世界の文化に関する知識と技術を涵養することを目的とする。

【日本語日本文学科】

日本語・日本文学を通して日本文化の教育及び研究を行うとともに、日本語の高度な運用能力を身につけて、広く社会に貢献できる人材を養成する。

【英米語英米文学科】

英米語・英米文学を通して英語圏文化の教育及び研究を行うとともに、英語コミュニケーション能力を身につけて、広く社会に貢献できる人材を養成する。

【中国語中国文学科】

中国語・中国文学を通して中国語圏文化の教育及び研究を行うとともに、中国語コミュニケーション能力を身につけて、広く社会に貢献できる人材を養成する。

【外国語学科】

高い英語運用能力を修得するとともに、多言語多文化に対する理解と対応力を養うため、英語以外のもう一つの外国語運用能力を身につけて、言語バリアを越えて広く社会に貢献できる人材を養成する。

卒業の認定に関する方針

https://www.bunkyo.ac.jp/department/language_and_literature/policy/

文学部は、本学の建学精神に則って、文学および語学を総合的に学修することにより、日本および世界の文化に関する知識と言語運用能力を持った人材を育成するために、本学部各学科の教育課程に定める単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解と活用力

- ・グローバル化した世界で要請される広い視野と教養を身に付ける。
- ・今日の世界を理解して判断と行動ができる言語と文化に関する専門的な知識を修得し、それらを活用することができる。

2. 問題発見・解決力

- ・対人関係を理解し実践的なコミュニケーションを行うための言語運用能力を修得し、それを生かして具体的な課題に適切な判断をして行動できる。

3. 他者の尊重と社会への貢献

- ・自文化、異文化に対する知識と言語運用能力に裏付けられた、人間を理解する力を身に付ける。
- ・社会人としての個人の立場を的確に理解し、進んでコミュニケーションを図り、適切に人間関係を築いて社会に貢献することができる。

【日本語日本文学科】

日本語日本文学科は、日本語・日本文学を通して日本文化の教育および研究を行うとともに、日本語の高度な運用能力を身に付けて、広く社会に貢献できる人材を育成するために、本学科の教育課程に定める単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解と活用力

日本の言語文化を、国際的な視点をまじえて、日本語と日本文化の両面から理解するための理論的、専門的な知識と技術を修得し、それらを活用することができる。

2. 問題発見・解決力

日本の言語文化に対する知識に裏付けられた、人間を深く理解する力を身に付け、それを生かして問題を発見し、解決していくことができる。

3. 他者の尊重と社会への貢献

日本の言語文化にかかわる実践的なコミュニケーション能力を身に付け、他者を尊重して積極的に行動し社会に貢献することができる。

【英米語英米文学科】

英米語英米文学科は、英語圏の言語と文化に対する深い理解と実践的な英語コミュニケーション能力を身に付けて、国際人として広く社会に貢献できる人材を育成するために、本学科の教育課程に定める単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解と活用力

英語圏の言語と文化に関する理論的、専門的知識を修得し、グローバル化した世界で要請される広い視野と教養に基づいて、英語で実践的なコミュニケーションを行うことができる。

2. 問題発見・解決力

英語圏の言語と文化に関する知識と英語コミュニケーション能力を生かして、今日の世界やその問題を理解し、具体的な課題に適切な判断をして行動できる。

3. 他者の尊重と社会への貢献

英語圏の言語と文化に関する知識に裏付けられた深い人間理解の態度を礎とし、他者を尊重して積極的にコミュニケーションを図る、国際人としての資質を身に付けている。

【中国語中国文学科】

中国語中国文学科は、中国および中国語圏の言語と文化に対する深い理解と実践的な中国語のコミュニケーション能力を持ち、国際人として広く社会に貢献できる人材を育成するために、本学科の教育課程に定める単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認

定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解と活用力

中国および中国語圏の言語と文化に関する理論的、専門的知識を修得し、現代社会で要請される広い国際的な視野と教養に基づいて、中国語による実践的なコミュニケーションを行うことができる。

2. 問題発見・解決力

中国および中国語圏の言語と文化に関する幅広い知識と中国語の運用能力を生かして、今日の世界やその問題を理解し、具体的な課題について適切な判断をし、主体的に行動できる。

3. 他者の尊重と社会への貢献

中国および中国語圏の言語と文化に関する知識に基づく深い人間理解や他者への共感的態度、コミュニケーション力によって社会に貢献することができる。

【外国語学科】

外国語学科は、高い英語運用能力を修得するとともに、多言語多文化に対する理解と対応力を養い、英語以外のもう一つの外国語運用能力を身に付け、言語バリアを越えて広く社会に貢献できる人材を育成するため、本学科の教育課程に定める単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解と活用力

グローバル化が進行する社会において、日本の言語・文化を含む多言語多文化に対して幅広い理解を得るための理論的、専門的な知識と技術を修得し、それらを活用することができる。

2. 問題発見・解決力

日本語・日本文化を含む多言語多文化社会に対する深い理解を基盤に、日本語・英語・さらにもう一つの外国語の高い運用能力を身に付け、言語バリアを越えて、自らを取り巻く社会における問題を発見し、解決することができる。

3. 他者の尊重と社会への貢献

日本語・日本文化を含む多言語多文化にかかわる実践的なコミュニケーション能力を身に付け、他者への共感的態度を持ち、協働しつつ積極的に行動し社会に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

https://www.bunkyo.ac.jp/department/language_and_literature/policy/

文学部は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定める能力を備えた人材育成の目標を達成するため、次の方針でカリキュラムを編成します。

1. 教育課程の体系的編成

学部共通科目による幅広い教養の育成と、各学科の専門教育科目による専門領域の深化を目標とした体系的な教育課程を編成する。

2. 教育内容・方法

・教員と学生の対話を重視し、ゼミナール等の少人数教育を重視した教育課程を展開する。

・1年次、2年次では小人数クラスの演習等の科目において研究の基礎を学び、3年次、4年次ではゼミナール、卒業研究等の科目において学修の成果である卒業論文等をまとめられるよう、少人数教育を実践する。

・開設する各科目において、授業方法として講義、講読、演習、実習等を適切に組み合わせ、知識、技術の修得を促進する。

・すべての学科の学生が履修可能な、日本語教員養成・図書館司書養成の各コースには、それぞれの専門家として必要な知識、技術を修得できる科目を設置する。

・将来の進路を見据えキャリア形成科目として「キャリアデザイン論」「キャリアリテラシー」「編集出版の基礎」「編集出版の展開」等により、キャリアを考える機会を提供する。

3. 特徴ある取組み・能動的な学修に向けた取組み

留学、インターンシップや各種資格取得のための学外・海外実習のプログラムを設け、

学外においてコミュニケーション等の技術、専門的知識や応用能力を学修できる場を提供する。

【日本語日本文学科】

日本語日本文学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定める能力を備えた人材育成の目標を達成するため、以下の点を踏まえて、本学科の教育課程編成に必要な科目を体系的に編成します。

1. 教育課程の体系的編成

現代にいたるまでの日本の言語文化について、日本語学・日本文学（近現代文学）・日本文学（古典文学）・書道・国語科教育・漢文学の6つの分野による幅広い教養の育成、および各専門領域の深化を目標とした体系的な教育課程を編成する。

2. 教育内容・方法

日本の言語文化に対する知識に裏付けられた人間を深く理解する力を身に付けるとともに、実践的なコミュニケーション能力を身に付けるために、教員と学生また学生同士の対話のできる少人数教育を重視した教育課程を展開する。

・1年次では必修科目の「研究基礎演習」において大学での研究の基礎を身に付け、2年次では各分野の専門科目を学修し、3・4年次では必修科目の「卒業研究」において学生各自が選択した専門分野での学修の成果である卒業論文をまとめられるよう、少人数教育を実践する。

・日本語学・日本文学（近現代文学）・日本文学（古典文学）・書道・国語科教育・漢文学の各分野で、講義、講読、演習、実習などの授業を配置して、知識、技術の修得を促進する。

・将来の進路を見据えたキャリア形成科目として「日本文学講読と創作」「国語科教育学」「書写・書道教育研究」などを置き、キャリアを考える機会を提供する。

3. 特徴ある取組み・能動的な学修に向けた取組み

1年次必修科目の「日本文化研究」で、日本の言語文化についてのテーマを調査・考察するとともに学外へ出て現地を訪問し、具体的な認識を得る。これをはじめとして、各専門分野の科目で学外において専門的知識を学修できる場を提供する。

【英米語英米文学科】

英米語英米文学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定める能力を備えた人材育成の目標を達成するため、以下の点を踏まえて、本学科の教育課程編成に必要な科目を体系的に編成します。

1. 教育課程の体系的編成

英語および英語圏の文化について、英語教育・英語学・英米文化・英米文学の4つの分野で基礎から始めて徐々に専門的知識を学ぶことで、幅広い知識と応用力を身に付けるとともに、関心のある専門領域を深く研究できる教育課程を編成する。

2. 教育内容・方法

英語圏の言語と文化に関する知識に裏付けられた深い人間理解を育み、実践的な英語コミュニケーション能力を身に付けるために、教員と学生また学生同士の対話のできる少人数教育を重視した教育課程を展開する。

・1年次の必修科目では英語で聞く・話す・読む・書くという4つの技能を効果的に伸ばし、2年次では英語教育・英語学・英米文化・英米文学の専門科目を学修し、3・4年次では必修科目の「卒業研究」において学生各自が選択した専門分野での学修の成果である卒業論文をまとめられるよう、少人数教育を実践する。

・英語コミュニケーション能力を養う科目では演習形式をとり、各専門分野の科目においては講義、講読、演習、実習などの形式を適切に組み合わせて、知識、技術の修得を促進する。

・将来の進路を見据えて、2年次に「英語教育コース」と「英米文化コース」に分かれ、各コースの入門科目を1年次に置くことで、早期からキャリアを考える機会を提供する。

3. 特徴ある取組み・能動的な学修に向けた取組み

英語圏諸国における短期・長期留学プログラムや、海外研修プログラムとタイアップし

た授業を設け、国際人として異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高められる場を提供する。

【中国語中国文学科】

中国語中国文学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定める能力を備えた人材育成の目標を達成するため、以下の点を踏まえて、本学科の教育課程編成に必要な科目を体系的に編成します。

1. 教育課程の体系的編成

実践的な中国語コミュニケーション能力を培うとともに、中国および中国語圏の言語と文化について、中国古典、近現代中国の言語、文化、思想、社会の諸分野による広範な知識の獲得と教養の育成、および各分野における専門性の深化を目標とした体系的な教育課程を編成する。

2. 教育内容・方法

中国語圏の言語と文化に関する知識と教養に裏付けられた人間理解を育み、中国語による実践的なコミュニケーション能力を身に付けるために、教員と学生また学生同士の対話のできる少人数教育を重視した教育課程を展開する。

・1年次の必修科目では中国語による聞く・話す・読む・書くの能力を基礎から学修する一方、大学での学修活動の基礎となる知識と態度を身に付け、2年次より中国語学・応用中国語、中国古典・教養、中国現代社会・文化の3コースに分かれて専門科目を学修し、3・4年次では必修科目の「卒業研究」において学生各自が選択した専門分野での学修成果として卒業論文をまとめられるよう、少人数教育を実践する。

・中国および中国語圏における短期・長期留学プログラムへの参加を通じて、主体的に国際人として異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高められる場を提供する。

・社会における実用性を重視し、また資格の取得にも対応する中国語コミュニケーションの科目を配置し、実用的な中国語運用能力の向上を図り、キャリア意識を涵養する機会を提供する。

3. 特徴ある取組み・能動的な学修に向けた取組み

中国語の基礎を学修した後の学生を対象に、実際の場面や話題に基づいた中国語コミュニケーション力の獲得、異文化環境で求められる問題解決スキルの向上を図るために、多言語交流室を活用した特別講座や学修機会を設ける。

【外国語学科】

外国語学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定める能力を備えた人材育成の目標を達成するため、以下の点を踏まえて、本学科の教育課程編成に必要な科目を体系的に編成します。

1. 教育課程の体系的編成

日本語・日本文化を含む多言語多文化に関する幅広い知識と高い言語運用能力を育成し、英語を実践的に活用するビジネス、コミュニケーション領域ならびに北米・ヨーロッパ・東アジアを中心とした言語・地域・文化に関する各専門領域の深い受容と理解を目標とした体系的な教育課程を編成する。

2. 教育内容・方法

英語および英語以外のもう一つの言語での高い運用能力を身に付けるとともに、日本語・日本文化を含む多言語多文化に対する深い知識と理解力および実践的なコミュニケーション能力を身に付けるために、e-Learning教材を積極的に活用し、対面授業の効果を高める。また教員と学生また学生同士の対話のできる少人数教育を重視した教育課程を展開する。

・1年次では必修科目を通して英語運用能力の土台を形成し、2年次春学期に、海外の英語研修機関で学び、帰国後の専門科目の学修に結びつける。必修科目「Seminar I・II」において専門分野での学修成果を卒業論文にまとめるために、3・4年次では、各自の興味・方向性に応じて、学内外で実践的学びを推進する。

・英語を実践的に活用するビジネス、コミュニケーション領域、日本語・日本文化・社会について理解し英語で発信する領域、ならびに北米・ヨーロッパ・東アジアを中心とした言語・地域・文化に関する領域において、幅広い知識、確かな技能を修得し、具体

的課題解決に向けて取り組む力を育成する。

・将来の進路を見据えたキャリア形成科目として「Problem-solving Seminar」「インターンシップ」「Workshop for Project」等を置き、実社会に近接した環境で経験を積む機会を提供する。

3. 特徴ある取組み・能動的な学修に向けた取組み

グローバル社会が直面する諸問題についての意識を高め、動機づけを行うために、1年次必修科目「Introduction to Global Studies」（オムニバス科目）において、英語のみを用いた宿泊研修を行う。海外の文化・社会に浸りながら英語コミュニケーション能力を磨くために、2年次春学期に、全員が3か月に及ぶ海外短期留学に参加する。留学後には、多文化体験をより深く多面的・多層的に理解し、他者に伝える経験を積むために、成果発表会を行う。3年次には、学んだことを自ら実践するプロセスを経験するために、学内外で展開するプロジェクトや長期留学に積極的に参加する。

入学者の受入れに関する方針

https://www.bunkyo.ac.jp/department/language_and_literature/policy/

<求める学生像>

文学部は、その教育目標を達成するために、次のような学生の入学を期待しています。

1. 本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人
2. 多様な言語と文化に関心が深く、知的好奇心をそなえた学ぶ意欲あふれる人
3. 広い視野を持って国際社会で活躍できる人
4. 人に心を開き、円滑なコミュニケーションを行うことができる人

<学んできてほしい内容>

1. 多様な言語と文化への深い関心、主体的な知的好奇心、国際社会で活躍できる広い視野、心を開いた円滑なコミュニケーション能力などの、意欲的に学ぼうとする態度
2. 日本語および日本語以外の言語の基礎的な知識や技能。また、歴史・地理などの基礎的な知識
3. 日本語および日本語以外の言語の基礎的な応用力。また、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化の産物への関心、歴史・地理などの知識の基礎的な応用力

【日本語日本文学科】

<求める学生像>

1. 本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人
2. 日本語および日本文化に対する関心が深く、積極的かつ多角的に探求して、広く社会に貢献しようとする姿勢を有する人

<学んできてほしい内容>

1. 日本語および日本文化への深い関心、日本語および日本文化を積極的かつ多角的に探求して、広く社会に貢献しようとする姿勢などの、意欲的に学ぼうとする態度
2. 日本語および日本語以外の他言語の基礎的な知識や技能。また、日本を中心とする国際的な歴史・地理などの基礎的な知識
3. 日本語の基礎的な応用力。また、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化の産物への関心、および歴史・地理などの知識の基礎的な応用力

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに向かって意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類、小論文、課題遂行および口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、表現力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心、日本語ならびに日本文化に関連した領域に関する関心、コミュニケーション力などを評価します。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。付属校・指定校では出願書類および口頭試問、公募では出願書類、口頭試問および小論文によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心、日本語ならびに日本文化に関連した領域に関する関心、コミュニケーション力などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに、基礎学力を評価します。

○特別入試

帰国生は出願書類、口頭試問および小論文、留学生は出願書類、口頭試問および筆記試験（日本語読解・小論文）、留学生別科推薦は出願書類および口頭試問により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、コミュニケーション力、本学科での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

【英米語英米文学科】

<求める学生像>

1. 本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人
2. 英語圏の言語と文化に興味があり、将来英語力を生かしたい人

<学んでほしい内容>

1. 英語圏の言語と文化への興味・関心。また、広い視野をもって意欲的に学ぼうとする態度
2. 英語圏の言語と文化に関する基礎的な知識。また、英語で簡単なコミュニケーションができる力
3. 人間の言語と文化に関する基礎的な知識を生かし、今日の世界の状況を理解して、説明や意見を簡単な英語で述べる力

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに向かって意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。面接または口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況、英語圏の言語ならびに文化に関連した領域に対する関心・適性、意欲的な活動、それに伴う成果などを評価します。出願資格として英語の各種検定合格を条件とし、その基礎力を有することを求めます。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。指定校・付属校では出願書類、大学入学希望書、面接または口頭試問、公募では出願書類、小論文および面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心、英語圏の言語ならびに文化に関連した領域に対する関心、コミュニケーション力などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに、基礎学力を評価します。

○特別入試

帰国生・留学生は出願書類、口頭試問および小論文、留学生別科推薦は出願書類および口頭試問により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、コミュニケーション力、本学科での教育を受けるための基礎学力・日本語力・英語力を有しているかどうかを評価します。

【中国語中国文学科】

<求める学生像>

1. 本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人
2. 中国語の修得および中国語圏の文化に対する関心が深く、積極的かつ多角的に探求して、広く社会に貢献しようとする姿勢を有する人

<学んでほしい内容>

1. 中国語圏の言語と文化への興味・関心。また、広い視野をもって意欲的に学ぼうとする態度ならびにコミュニケーション能力。また、他者との違いを理解・尊重しようとする態度によって他者と協働し、社会に貢献しようとする姿勢
2. 日本語および中国語を含む日本語以外の言語の基礎的な知識や技能。また、歴史・地理・思想・社会・文化などの基礎的な知識、およびそれらに対する基礎的な問題意識
3. 日本語および中国語を含む日本語以外の言語の基礎的な知識に基づいて、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化・事象への関心を持ち、今日の社会が抱える課題に対して主体的に考察・判断・表現し、さらに取り組みを進めることができる意欲や技能

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに向かって意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。小論文および口頭試問、課題遂行によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況、中国語およびその他の言語ならびに多文化理解に対する関心・適性、意欲的な活動、それに伴う成果などを評価します。課題遂行型においては、本学科の学びにおいて必要となる中国の文学・思想・言語・社会・文化・歴史・地理などに関する基礎力とそれらについて探求することができる力、自分の考えを相手に伝える力を有することを求めます。資格優先型においては、出願資格として中国語または英語の各種検定合格を条件とし、その基礎力を有することを求めます。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。付属校・指定校では出願書類および口頭試問、公募推薦では出願書類、小論文および口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心、中国語ならびに中国文化に関連した領域に関する関心、コミュニケーション力などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに、基礎学力を評価します。

○特別入試

帰国生・留学生は出願書類、口頭試問および小論文、留学生別科推薦は出願書類および口頭試問により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、コミュニケーション力、本学科での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

【外国語学科】

<求める学生像>

1. 本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人
2. 英語ともう一つの外国語を修得する意欲があり、多文化に対する理解・共感に関心が深く、将来、グローバルな視点で社会に貢献する意欲を持つ人

<学んでほしい内容>

1. 英語ともう一つの外国語を修得する意欲、多文化に対する理解・共感への深い関心、将来グローバルな視点で社会に貢献する意欲などの、意欲的に学ぶ態度。ならびに、他者との違いを受容し協働しようとする姿勢
2. 日本語および日本語以外の言語の基礎的な知識や技能。また、歴史・地理・環境・社会情勢など、自身を取り巻く社会の諸側面に関する基礎的な知識、およびそれらに対する基礎的な問題意識
3. 日本語および日本語以外の言語の基礎的な知識に基づいて、具体的な事象や課題について主体的に考え、判断し、自身の考えを表現する基本的な力。また、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化・事物への関心に基づき、新たな課題を見出し発想する力

<入学選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに向かって意欲的に学修に取り組める入学選抜することを目的とします。出願書類と課題の遂行やプレゼンテーション、または口頭試問などによって大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況、英語をはじめとする複数の言語、多文化共生に対する関心・適性、意欲的な活動、グローバル社会の諸問題に対する関心、問題解決能力などを評価します。入試の種類により、出願資格として英語またはドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の各種検定合格を条件とする場合があります。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学選抜することを目的とします。付属校・指定校では出願書類、大学入学希望書およびプレゼンテーション、公募では出願書類、小論文および面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心、英語およびその他の言語ならびに多文化理解に関する関心、コミュニケーション力などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに、基礎学力を評価します。

○特別入試

帰国生は出願書類、小論文および口頭試問、留学生は出願書類、小論文および口頭試問、留学生別科推薦は出願書類および口頭試問により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、コミュニケーション力、本学科での教育を受けるための基礎学力・日本語力・英語力を有しているかどうかを評価します。

<p>情報学部</p> <p><u>教育研究上の目的</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/purpose/</p> <p>情報学部は、本学の建学精神に則って、情報の総合的な理解と社会生活における情報の効果的利用に必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。</p> <p>【情報システム学科】</p> <p>情報システムに関して、基礎から応用にいたる多面的、総合的な方法論を身に付け、新たな情報システムの創成を通じて、人間を中心とした情報社会の発展に貢献できる高度職業人を養成する。</p> <p>【情報社会学科】</p> <p>情報化によってもたらされた利害を認識し、現代社会における人と社会の要求を的確に把握する力を養成するための多面的、総合的な方法論を身に付け、情報社会に基礎を置く諸活動の創成を通じて、人間を中心とした情報社会の発展に貢献できる高度職業人を養成する。</p> <p>【メディア表現学科】</p> <p>メディア環境のグローバルな変化に対応すべく、人間の社会的なメッセージの伝達過程およびメディア文化に関する総合的な理解を深め、情報を創出・伝達・分析するための方法論を身に付け、人間を中心とした情報社会の発展に貢献できる高度職業人を養成する。</p>
<p><u>卒業の認定に関する方針</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/department/information/policy/</p> <p>日本で最初の情報学部という特色を生かし、情報を本質的・多面的に学ぶことで、感性・知性・技能や、最先端の情報環境を駆使して、情報化社会で指導的な役割を發揮できる能力を身に付け、各学科の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <p><修得させる能力></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における「情報」の意味とその役割について理解する能力 2. 情報を表現、発信するための、コミュニケーション能力及び言語能力 3. 情報を活用することで、人間を尊重した情報化社会を進歩させるにふさわしい能力 <p><達成水準></p> <p>次の水準を達成目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化社会において問題を発見し、解決できるレベル 2. 適切なコミュニケーション手段を用いて効果的に情報発信できるレベル 3. 新しいアイデアを提案し、計画的に実行できるレベル
<p><u>教育課程の編成及び実施に関する方針</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/department/information/policy/</p> <p>情報の総合的理解と社会生活における情報の効果的利用に必要な理論的、実践的専門知識と技術を獲得させるために次の方針によりカリキュラムを構成します。</p> <p><教育課程の体系及び特徴></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における「情報」の意味とその役割について理解し、感性・知性・技能をバランスよく身につけさせるために、多様な要求に応えるカリキュラムを設置する。 2. 「頭と手」の両面を強化するために、理論面と実践面でのバランスを配慮して科目を配置する。 3. 情報化社会を包括的に理解させるために、学科横断的に情報学の基礎を学ぶ科目を配置し、主専攻・副専攻制度を設け、学科横断的に身に付けた専攻領域の能力を認定する。 4. 情報化社会の多様な要求と社会の変化や進歩に応え得る高い能力を身につけさせるために、各学科に専門科目をおく。 5. 初年次教育において、演習を通じて基礎的な学習スキルとコミュニケーション能力、情報発信力の育成を行う。 6. 学科ごとにコース制や選択必修科目を設け、大学での学びの方向性を明確化させる。

入学者の受入れに関する方針

<https://www.bunkyo.ac.jp/department/information/policy/>

＜求める学生像＞

情報学部は、次のような学生の入学を期待しています。

1. 情報化社会に関心があり、その中で主体的に生きようとする人

＜学んでほしい内容＞

1. 基礎的なコミュニケーション能力に直結する学習を十分に行っていること
2. 論理的な思考力に資するような科目を習得していること
3. 現代の社会に対する基礎的な理解や関心を持っていること

【情報システム学科】

＜求める学生像＞

1. コンピュータやインターネット、ソフトウェアに興味があり、創造的で効果のあるシステムの企画や開発過程を理解し、システムの開発に携わる希望を持つ人
2. 技術の進歩に的確に対応できる知性および技術力を身につけ、システムの開発に活かすことに興味を持つ人
3. デジタルコンテンツに興味を持ち、デジタルの良さを活かした情報の表現と、コンテンツ制作のプロセス理解に強い意欲を持った人
4. ソフトウェアやデジタルコンテンツの重要性を理解し、利用者にとって使いやすいシステムの構築に興味を持つ人
5. システマティックな問題解決の技法と、解決過程でのデジタル技術の応用方法に興味を持つ人
6. 教育におけるデジタル技術の活用に興味を持ち、新たな教育方法の提案に興味を持つ人

＜学んでほしい内容＞

1. 情報システム学科で学ぶにあたり、チームでの活動に必要な基礎的なコミュニケーション能力に直結する学習を十分に行っていること
2. 情報学に基づく情報システム学科の科目を学ぶにあたり、必要な論理的思考力に結びつく科目を習得していること
3. 情報システムやデジタルコンテンツを企画・開発するにあたり、必要な

現代社会に対する基礎的な理解や関心を持っていること

＜入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）＞

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに沿って意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、課題遂行などによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況、知識・技能などを評価します。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文などによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

○特別入試

出願書類、面接、小論文などにより、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での

教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

【情報社会学科】

<求める学生像>

1. 情報社会に関心を持ち、情報社会に係わる専門知識を修得する意欲を持つ人
2. 情報社会のなかで新たなビジネスを提案することに強い意欲を持つ人
3. 情報社会における諸問題に対して、チームを編成して、そのリーダーとして解決する強い意欲を持つ人

<学んできてほしい内容>

1. 情報社会に対する基礎的な理解や関心を持っていること
2. 社会のなかにある諸問題の発見、分析、解決方法の提案をするための基礎となる思考力・判断力・表現力に直結する学習を十分に行っていること
3. 協働的な活動を進めるための主体性とコミュニケーション能力に直結する学習を十分に行っていること

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来の目標に沿って主体的かつ意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類および、課題の遂行または学科が指定した資格試験の結果の提出などによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来の目標、思考力、判断力、表現力、志望動機、学修意欲、主体的に学ぶ態度などを評価します。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、基礎学力を有しかつ意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類および口頭試問などによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、思考力、コミュニケーション能力、高校での学習・諸活動の状況、志望動機、学修意欲、主体的に学ぶ態度などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

○特別入試

出願書類、面接、小論文などにより、将来のビジョン、志望動機、学修意欲、本学での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

【メディア表現学科】

<求める学生像>

1. 主体的に学び考え判断し、行動することのできる人
2. 人間社会における文化と創造性に関する教養をもって社会で活躍しようとする人
3. 社会の出来事や物事に関する情報を収集・分析・考察・編集して、出版や報道などを通じて社会に発信することに関心がある人
4. 映像に関する理論や表現技法を身に付けて、教養と専門性をもって職能を発揮しようとする人
5. デザインやグラフィックスに関する理論や表現技法を身に付けて、教養と専門性をもって職能を発揮しようとする人
6. 社会とメディアの双方を理解した上で、ソーシャルメディアをはじめとした各種メディアと表現方法を適切に用いて課題解決を行うこと、あるいは広告や広報として情報を発信することに関心がある人
7. 各分野で極めて優秀な成果を収め、その専門性を本学科での学修に活かしつつ社会で活躍しようとする人

<学んできてほしい内容>

<p>1. 社会やメディアなどの理解に必要な十分な学力と知的好奇心を有すること</p> <p>2. メディア表現学科で学ぶための基礎知識と言語力、コミュニケーション能力を有すること</p> <p>3. 論理的思考・客観的思考に結びつく学習をしていること</p> <p><入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）></p> <p>○総合型選抜</p> <p>本学科が求める学生像を理解し、将来の目標に向かって主体的かつ意欲的に学修に取り組むことのできる入学者を選抜することを目的とします。書類審査と、課題の遂行やプレゼンテーション、または学科が指定した資格試験の結果の提出、口頭試問などによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協同して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来の目標、志望動機、主体性、学修意欲、言語力、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力、入学後の学修に結びつく知識や技能の獲得状況などを評価します。</p> <p>○学校推薦型選抜</p> <p>高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、十分な学力を有しかつ意欲的に学修に取り組むことのできる入学者を選抜することを目的とします。書類審査と、口頭試問や小論文などによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、志望動機、主体性、学修意欲、将来の目標、言語力、論理性、客観性、思考力、判断力、コミュニケーション能力、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。</p> <p>○一般選抜</p> <p>本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。</p> <p>○特別入試</p> <p>出願書類、小論文、面接などにより、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。</p>
<p>健康栄養学部</p>
<p><u>教育研究上の目的</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/purpose/</p> <p>健康栄養学部は、本学の建学精神に則って、健康科学と栄養科学を通して、現代社会における生活習慣病等の基礎知識を理解し、予防医学の観点から健康の維持・増進に寄与するために必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。</p> <p>【管理栄養学科】</p> <p>管理栄養士としての力とコミュニケーション力を兼ね備えた、予防医学を担う栄養の専門家としての「ココロとカラダの健康を育む管理栄養士」を養成する。</p>
<p><u>卒業の認定に関する方針</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/department/health/policy/</p> <p>健康栄養学部は、健康を保つための手段として「栄養」をとりあげ、栄養的手段がどの様に健康に役立つかを教育・研究します。また管理栄養士業務が人を対象とした業務であることを理解し、心理学的スキルを含めた健康および栄養についての理論的、実践的専門知識・技能を身に付け、学科の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <p>1. 疾病の予防、早期発見、回復の各観点から、専門領域の高度化に対応できる管理栄養士としての能力</p> <p>2. 対象者の心理状態を把握し、適切に対応する知識・技術・コミュニケーション力を持った「ココロの面からも対応できる管理栄養士」としての能力</p>
<p><u>教育課程の編成及び実施に関する方針</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/department/health/policy/</p>

健康栄養学部は、学位授与方針に定める人材育成の目標を達成するため、次の方針でカリキュラムを編成します。

1. 基礎的分野から専門領域までを連携させた体系的な科目配置を行う。
2. 講義・演習・実験・実習・実技の5つの授業形態を組み合わせて授業を展開する。
3. 初年次教育として、管理栄養士に求められる知識・技能の前提となる基礎的素養（栄養・食品・献立・健康管理の基礎知識）および社会人の基本的姿勢・態度を修得するための科目を置く。
4. 「ココロの面からも対応できる管理栄養士」の養成を目指し、専門教育科目として心理系と代替医療系から構成された「ココロを育む科目」を設定する。
5. グループで主体的に取り組む課題を多く設定し、管理栄養士に求められる問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を身につけさせる。
6. 上位学年にゼミナール科目を設定し、様々なテーマについて学生が主体的に調査・分析・研究できる環境を用意する。
7. 卒業後の職種に合わせた「栄養教諭コース」「健康栄養コース」「臨床栄養コース」の3コースを設ける。3年次からコースに分け、職能教育を強化することにより管理栄養士としての将来像を在学中から具体的に描き、職能人として自信と希望を持って卒業することができるようにする。

入学者の受入れに関する方針

<https://www.bunkyo.ac.jp/department/health/policy/>

<求める学生像>

健康栄養学部では、次のような学生の入学を期待しています。

1. 本学の健康栄養学部の特色である「予防医学を重視した管理栄養士養成」と「ココロの面からも対応できる管理栄養士の養成」を理解し、将来、食と健康のプロフェッショナルとなることを希望する人
2. 探究心旺盛で、食と健康に関する問題に興味を持っている人
3. 強い責任感と使命感を持っている人、学問に対しつねに真摯な態度で取り組む人、協調性に富み、周囲からの信望が厚い人

<学んでほしい内容>

1. 理科（化学と生物）と家庭科を十分に習得していることを望みます。特に化学（有機化学）に関する基礎学力が十分に習得できていることが大切です。（入学後、化学（有機化学）に関する基礎学力を能力別に補う初年次教育を実施しています。）

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、管理栄養士免許取得を目指して意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。課題についてのプレゼンテーションによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、管理栄養士の業務についての理解、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、などを評価します。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とします。求める学生像を理解し、管理栄養士免許取得を目指して意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類および口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、管理栄養士免許取得への意欲、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通

<p>テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。</p> <p>○特別入試（社会人一般） 出願書類、小論文により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。</p> <p>○特別入試（社会人キャリア優先） 社会人としてスポーツの分野で活躍した経歴をもつ事を前提とします。管理栄養士免許を取得し、卒業後は資格を活かして再びスポーツの分野に貢献する事を目標にする学生の入学を期待します。管理栄養士免許取得を目指し、熱意と協調性、リーダーシップを持って学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類、小論文により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。</p> <p>国際学部</p>
<p><u>教育研究上の目的</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/purpose/</p> <p>国際学部は、本学の建学精神に則って、国際社会を学術的、実践的に理解し、もって人間生活と国際化社会の向上発展に必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。</p> <p>【国際理解学科】 コミュニケーション能力を身につけ、国際社会に関する知識と理解力を有する地球市民として、NGOやNPO、学校教育及び産業界における国際交流、国際協力、環境問題対策などの領域で社会に貢献できる人材を養成する。</p> <p>【国際観光学科】 社会科学を基盤に、ビジネス及び地域づくりとしての観光に関する教育及び研究を行う。グローバルかつローカルな視野と問題解決能力を培うことによって、国際観光領域で活躍できる人材を養成する。</p>
<p><u>卒業の認定に関する方針</u></p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/department/international_studies/policy/</p> <p>国際学部は、本学の建学精神に則って日本と世界の関係を理解し、人間生活と国際社会の向上発展に必要な理論的、実践的専門知識と技術力を身に付け、各学科の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <p><修得させるべき能力></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際理解と国際観光についての専門知識を運用する能力 2. 国際人として相互理解を深めるコミュニケーション能力 3. 国際社会において問題解決のために自ら行動を起こす能力 <p><達成水準></p> <p>国際的な舞台で活躍できるレベルの専門知識とコミュニケーション能力を修得し、そこで生じる様々な問題を解決しようとする意欲を高めることを達成目標とします。</p> <p>【国際理解学科】 国際理解学科は、産業界、学校教育分野において文化交流、国際協力などの領域で社会に貢献できる人材育成を目的とし、コミュニケーション能力や、グローバル化する社会に関する知識と理解力を身に付け、学科の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的知識・技術の活用力 世界の言語・文化・地理・歴史・社会・政治・経済についての知識を修得し、それらを活用することができる。 2. 問題発見・解決力 修得した知識と言語スキルを生かし、貧困や差別、環境汚染や宗教対立をはじめとする問題を発見し、解決していくことができる。 3. 人間愛の実践 人々の多様な価値観を尊重し、異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図ること

ができ、国際社会と地域社会において積極的に行動し、社会に貢献することができる。

【国際観光学科】

国際観光学科は、ビジネスおよび地域づくりなど国際観光を通じて社会に貢献できる人材養成を目的とし、グローバル化する社会における国際観光に関する知識や理解力や、高いコミュニケーション能力を身に付け、学科の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 専門的知識・技術の活用力

国際観光についての知識とコミュニケーション能力を習得し、それらを活用することができる。

2. 問題発見・解決力

修得した知識とコミュニケーション能力を生かし、グローバルかつローカルな視点から観光に関する問題を発見し、解決していくことができる。

3. 人間愛の実践

多様な価値観を尊重しコミュニケーションを図りつつ、国際観光分野でリーダーシップを発揮して社会に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

https://www.bunkyo.ac.jp/department/international_studies/policy/

幅広い教養と人間への深い理解をもち、国際理解や国際観光の分野において、問題解決のための方法論と専門家として活躍できる知識を修得し、社会に貢献できる人材の育成するため、次の方針でカリキュラムを編成します。

1. 1年生から4年生まで少人数によるゼミナールを必修として配置する。

2. 使える英語力を身につけさせるために、必修の英語を3年次まで配置するほか、短期留学制度など様々なプログラムを提供する。

3. 1年次春学期から、体系的に国際学の専門科目を学べるようにする。

4. 社会で夢を実現するため、社会人としての基礎力を身につけるための様々なキャリア形成プログラムを用意する。

5. 正課内及び正課外の自主的活動として国内外での様々なボランティア活動の機会を提供し、学生が現場に飛び込むことを応援する。

【国際理解学科】

国際理解学科は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に定める人材育成の目標を達成するため、建学の精神である「人間愛」の教育の実践を基盤とし、以下の点を踏まえて、言語科目、専門教育科目、教職課程科目から成る教育課程編成に必要な科目を体系的に編成します。

1. 英語を中心とした言語スキルの育成とグローバル化する社会への深い理解を目標とした教育課程を編成する。

2. 教員と学生の対話を重視し、ゼミナール等の少人数教育を重視した教育課程を編成する。

(1) 1、2年生のゼミナールにおいては、学生生活のスタートアップからアカデミックスキルの習得に至るまで、少人数クラスでの懇切丁寧な指導、支援を行う。

(2) 実践的なコミュニケーション能力を育成するために、語学教育は少人数による指導を徹底する。

(3) サービスマーケティングやフィールド研究、インターンシップ等の体験的学習においては、実社会に存在する課題を、活動を通して学び、確かな理解と専門性を身に着けるために、少人数による対話を中心とした学びを行う。

(4) 教職課程においては、理論と実践の両面を兼ね備えた教育者を養成する。指導計画作成や模擬授業などの演習を繰り返すとともに、学習支援ボランティアなど教育現場との連携を密に行う。

3. 長期・短期の留学制度や海外研修プログラム、国内の他大学との単位互換制度を設け、学外においてもコミュニケーション能力を修得し、社会的課題に向き合い、課題解決のための専門的知識を学修できる場を提供する。

【国際観光学科】

国際観光学科は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定める人材育成の目標を達成するため、建学の精神である「人間愛」の教育の実践を基盤とし、以下の点を踏まえて、言語科目、専門教育科目などから成る教育課程に必要な科目を体系的に編成します。

1. 英語を中心とした言語スキルの修得とグローバル化する社会における国際観光の役割や課題などに関する深い理解を目標とした教育課程を編成する。

2. 教員と学生の対話を重視し、ゼミナール等の少人数教育を重視した教育課程を編成する。

(1) 1、2年生のゼミナールにおいては、学生生活のスタートアップからアカデミックスキルの習得に至るまで、少人数クラスでの懇切丁寧な指導、支援を行う。

(2) 実践的なコミュニケーション能力を育成するために、語学教育は少人数による指導を徹底する。

(3) 専門ゼミナール等において、少人数制のプロジェクト型の演習の機会を提供し、問題発見・解決力を養成する。

(4) 将来の進路を見据え、インターンシップをはじめとする体験的なキャリア形成プログラムや、行政、企業、NPO など学外との交流の機会、博物館学芸員など資格取得に必要な科目を提供する。

3. 長期・短期の留学制度や学外研修プログラム、国内の他大学との単位互換制度を設け、学外においてコミュニケーション能力を修得するとともに、国際観光の現状や課題などを体験的に学修できる場を提供する。

入学者の受入れに関する方針

https://www.bunkyo.ac.jp/department/international_studies/policy/

<求める学生像>

国際学部は、次のような学生の入学を期待しています。

1. 国際社会で生じている多様な問題に関心を持ち、国際理解や国際観光の学びを通じて積極的に社会貢献したいと考えている人

2. 英語を主とする外国語コミュニケーション能力を高めるとともに、社会への理解を深めて国際社会と地域社会の課題解決に貢献したいという意欲を持つ人

3. 旅行、宿泊、交通などの観光ビジネスや地域づくりに関心を持ち、国際観光を通じて社会への貢献をしたいという意欲を持つ人

4. 世界のいろいろな現場で求められる多様な「リーダー」の重要性を理解し、「人を育てる私」になる自覚をもって学修する意欲を持つ人

<学んできてほしい内容>

1. 世界の歴史、文化、言語に関する基礎知識

2. 国際観光や国際交流の体験や学習経験

3. 基礎的なコミュニケーションスキル

【国際学部国際理解学科】

<求める学生像>

1. 英語を主とする外国語コミュニケーション能力を高めるとともに、社会への理解を深めて国際社会と地域社会の課題解決に貢献したいという意欲を持つ人

2. 世界の地理、歴史、文化、言語に関する基礎知識を有している人

3. 高等学校までの学習において、正課外活動を通じて、地域社会の課題解決にかかわった経験がある人

<学んできてほしい内容>

1. 世界の地理歴史、政治経済、文化、言語に関する基礎知識

2. 英語を主とした基礎的な外国語コミュニケーションスキル

3. 国際交流などの体験や学習経験

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに沿って意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類とプレゼンテーションによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況などを評価します。

課題遂行型においては、特に自ら国際社会や地域社会に関わる問題を設定し、その解決策を考えることができる力、自分の考えを相手に伝える力を評価します。資格優先型においては、特に外国語コミュニケーション能力を評価します。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、国際社会や地域社会の諸問題に対する関心などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

○特別入試

出願書類、面接、小論文により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

【国際学部国際観光学科】

<求める学生像>

1. 旅行、宿泊、交通などの観光ビジネスや地域づくりに関心を持ち、国際観光を通じて社会に貢献したいという意欲を持つ人
2. 基礎的なコミュニケーション能力を有している人
3. 国際観光や地域づくりにかかわった経験がある人

<学んでほしい内容>

1. 世界の地理歴史、政治経済、文化、言語に関する基礎知識
2. 自分の考えをまとめ相手に伝えるための思考力や表現力
3. 観光や地域にかかわる体験や学習経験

<入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに沿って意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類とプレゼンテーションによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況などを評価します。

課題遂行型においては、特に自ら観光ビジネスや地域づくりに関わる問題を設定し、その解決策を考えることができる力、自分の考えを相手に伝える力を評価します。資格優先型においては、特に外国語コミュニケーション能力を評価します。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、観光ビジネスや地域づくりの諸問題に対する関心などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

○特別入試

出願書類、面接、小論文により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

経営学部

教育研究上の目的

<https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/purpose/>

経営学部は、本学の建学精神に則って、豊かな教養を育み、人間を尊重する経営の重要性を理解し実践する総合的知識と技術を涵養することを目的とする。

【経営学科】

社会のより良き一員として生きていくための基礎能力を修養し、そのうえで、経営資源に関する多面的な理解と経営で出現する情報を扱う科学的な技術、そして人を活かす考え方と手法を学び、それらを総合的に活用して、産業界から行政にいたる幅の広い分野・職種で活躍できる人材を養成する。

卒業の認定に関する方針

<https://www.bunkyo.ac.jp/department/business/policy/>

経営学部は、企業や自治体等の経営活動に対する深い理解と科学的な問題発見・解決の技能を有し、「人間尊重の経営」の実践を通じ広く社会に貢献できる力を身に付け、学部の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・理解

経営に必要な人的・資金的・物的な資源の扱いに関する知識を礎に、情報を科学的に扱う技能を有し、経営活動を総合的に理解する理論的、専門的な知識と技術を修得し、それらを活用することができる。

2. 汎用的技能

経営に対する知識に裏付けられた、企業や自治体等での活動を深く理解する力を習得し、それを生かして問題を発見・分析し、わかりやすく提案し、問題解決に向け円滑なコミュニケーションにより他者と協働していくことができる。

3. 態度・志向性、及び総合的な学習経験と創造的思考力

体系的に修得した経営に関する知識と技術を実際に直面する課題に対して適用することで新たな価値を創造し、他者を尊重しつつ自律的に行動し社会に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

<https://www.bunkyo.ac.jp/department/business/policy/>

経営学部は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定める人材育成の目標を達成するため、次の方針でカリキュラムを編成します。

1. 教育課程の体系的編成

共通教育科目による幅広い教養の育成と、外国語科目によるグローバル化に対応できる外国語運用能力の獲得、専門教育科目による専門領域の深化を目標とした体系的な教育課程を編成する。専門教育科目については、経営に必要な人的・資金的・物的な資源の扱いに関する知識と情報を科学的に扱う技能を修得し、企業経営・公共経営・会計の3つの分野で基礎から始めて徐々に専門的知識を学ぶことで、幅広い知識と応用力を身につけるとともに、関心のある専門領域を深く研究できる教育課程を編成する。

2. 教育内容・方法

経営に関する知識と技能に裏付けられた「人間尊重の経営」を理解し実践できる力を身につけるため、教員と学生の主体的対話を中心とした深い学びを組み入れたゼミナール等の少人数教育を重視した教育課程を展開する。

・1・2年次では小人数クラスの演習等の科目「知へのナビゲーション」「知のリテラシー」「知の基礎能力」「知の探究」において大学での学修活動の基礎を身につけるそ

の一方、経営における人的・資金的・物的な資源と情報を適切に扱う能力を基礎から段階的に学修する。あわせて企業経営・公共経営・会計の3分野について基礎から学修し専門性を深める。3・4年次ではゼミナ

ールに所属して関心のある専門領域の理解を段階的に進め、教員と学生の親密な対話と協働を基礎に、学修活動の成果として卒業論文をまとめる。

・「人間尊重の経営」の考え方の修得のため、1年次では「人間と経営学」、2年次では「多文化と経営」において考え方の基礎を形成し、心理学・組織論・管理論・人材開発・人的資源管理・企業倫理・労働法等に関する科目により理解の拡大及び深化を促す。

・授業方法として講義、演習、実習等を適切に組み合わせ、知識、技術の修得を促進する。授業では主題に対する興味を喚起し学習への動機付けを行い、試行錯誤の中から問題解決に向けた学修を促し、その振り返りから次の学びにつなげる過程を取り入れる。また、その過程で他者との対話を通じ自らの考え方の適用範囲を広げ成長を促す。

・将来の進路を見据えキャリア形成科目として「キャリア形成」、「職業・キャリア指導」「リーダーシップ開発」等により、キャリアを考える機会を提供する。

3. 特徴ある取組み・能動的な学修に向けた取組み

地方議会と協働し実施するインターンシップ科目「公共経営実地演習」に加え、企業や自治体でのインターンシップ、各種公務員受験対策のための課外プログラム、海外研修プログラムを設け、学外において専門的知識や応用能力を学修できる場を提供する。

入学者の受入れに関する方針

<https://www.bunkyo.ac.jp/department/business/policy/>

<求める学生像>

経営学部では、次のような学生の入学を期待しています。

1. 文教大学の「人間愛」の理念のもとで、社会のより良き一員として生きていくための基盤的な能力や人格を着実に修養し、そのうえで経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を多面的に効果的に活用できる人

2. 経営活動において人を核心とする思想と手法を統合し、「人間尊重の経営」を具現化できる人

3. 基礎学力と学修意欲を有していることはもとより、大学の理念や学部の目標について理解し共鳴できる人

<学んできてほしい内容>

1. 基礎学力と学びへの姿勢

高等学校における教科を着実に学び、基礎学力を修得しており、学ぶことの面白さや学ぶ習慣を身につけている。

2. 求められる能力にかかる基礎の修得

コミュニケーション能力、論理的思考力、総合的判断力、そして的確な表現力は、経営学部での専門的な学修を深めるために不可欠となる。高等学校での各教科の学習を通じて、こうした能力の基礎が修得できている。

3. 主体的な思考と他者との協働

経営学部の教育では、学生と教員、あるいは学生同士の対話と協働によって、高度な思考力や卓越した創造性を錬磨させていく。主体的に思考し行動しながらも、他者を尊重し多様な人々と協力していこうとする態度が身につけている。

4. 社会の一員としての意識

自分の人生や進路について真剣に考えるとともに、社会のさまざまな出来事に対して問題意識を有している。

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

○総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに沿って意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類と課題、面接等により、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）や学びへの姿勢、学修意欲等を総合的に評価します。具体的には、課題に対する理解度と達成度および報告の的確さ、論理的思考力、

主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、コミュニケーション力、高校での学習・諸活動の状況などを評価します。

○学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接により、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）や学びへの姿勢、学修意欲等を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、コミュニケーション力、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

○一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

○特別入試

出願書類、面接、小論文により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：Web 公開

学部・大学院案内

<https://www.bunkyo.ac.jp/department/>

大学組織・運営機構

<https://www.bunkyo.ac.jp/about/university/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
教育学部	－	37人	13人	3人	0人	0人	63人
人間科学部	－	23人	14人	2人	1人	0人	40人
文学部	－	31人	7人	2人	0人	0人	40人
情報学部	－	19人	9人	4人	0人	0人	32人
健康栄養学部	－	9人	3人	4人	0人	0人	16人
国際学部	－	15人	12人	5人	0人	0人	32人
経営学部	－	8人	5人	2人	1人	0人	16人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
人				559人			559人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：Web掲載 https://gakujyo.bunkyo.ac.jp/bnkhp/KgApp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教育研究推進センターを主体に、毎学期末授業評価アンケートの実施、FD・SD研修会の実施等の取り組みを行っている。また、2021年3月よりハイフレックス授業の準備・運営に向けたオンライン教材の提供を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	350人	406人	116%	1400人	1618人	116%	0人	0人
人間科学部	400人	464人	116%	1600人	1811人	113%	0人	0人
文学部	360人	377人	105%	1440人	1399人	97%	0人	0人
情報学部	285人	311人	109%	1140人	1249人	110%	0人	2人
健康栄養学部	100人	79人	79%	400人	353人	88%	0人	0人
国際学部	245人	300人	122%	980人	1183人	121%	0人	7人
経営学部	165人	216人	131%	660人	792人	120%	0人	0人
合計	1905人	2153人	113%	7620人	8405人	110%	0人	9人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育学部	349人 (100%)	14人 (4.0%)	327人 (93.7%)	8人 (2.3%)
人間科学部	360人 (100%)	27人 (7.5%)	302人 (83.9%)	31人 (8.6%)
文学部	310人 (100%)	9人 (2.9%)	265人 (85.5%)	36人 (11.6%)
情報学部	270人 (100%)	2人 (0.7%)	239人 (88.5%)	29人 (10.7%)
健康栄養学部	96人 (100%)	3人 (3.1%)	85人 (88.5%)	8人 (8.3%)
国際学部	229人 (100%)	5人 (1.1%)	195人 (85.2%)	29人 (12.7%)
経営学部	158人 (100%)	2人 (2.2%)	137人 (86.7%)	19人 (12%)
合計	1772人 (100%)	62人 (3.5%)	1550人 (87.5%)	160人 (9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

全ての授業科目について授業計画(シラバス)を作成し、Webで公表している。授業計画を確実に計画・公表するために、Webシラバスシステムの入力必須項目として、授業の方法及び内容・到達目標・成績評価の方法や基準を入力する欄を設け、さらに一般授業(ゼミナール・教育実習等を除く)には15回分の授業計画を入力する欄を設けている。授業計画等に関する情報 <https://www.bunkyo.ac.jp/guide/syllabus.htm>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 【様式第2号の3より再掲】

学修の成果にかかる評価に当たっては、授業ごとにシラバスであらかじめ明示し、その方法・基準に基づき単位を与えている。

例) 成績評価の方法 「授業への出席を基本として、期末課題 70%、授業内の提出物や参加態度 30%の割合で、総合的に評価する。」

例) 成績評価の基準 「AA (100～90 点) (自分なりの問題意識をもち、課題を的確に理解し、授業に積極的に参加している。授業の目的が十分達成されている)、A (89～80 点) (自分なりの問題意識をもち、課題を的確に理解し、授業に積極的に参加している)、B (79～70 点) (授業参加、提出物については問題ないが、課題の理解力がやや不足している。)、C (69～60 点) (授業に参加しているが、課題の理解力が不足している)」

卒業の認定に当たっては、学部・学科それぞれにおいて「学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー」を策定し、Web 公開している。

教育学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/education/policy/
人間科学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/human_sciences/policy/
文学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/language_and_literature/policy/
情報学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/information/policy/
健康栄養学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/health/policy/
国際学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/international_studies/policy/
経営学部	https://www.bunkyo.ac.jp/department/business/policy/

各学部・学科で定めた「学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー」にのっとり、卒業の認定を実施している。

学部名	学科名	卒業に必要な となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	学校教育課程	124 単位	有・無	単位
	発達教育課程	124 単位	有・無	単位
	心理教育課程	130 単位	有・無	単位
人間科学部	人間科学科	124 単位	有・無	単位
	臨床心理学科	124 単位	有・無	単位
	心理学科	124 単位	有・無	単位
文学部	日本語日本文学科	128 単位	有・無	単位
	英米語英米文学科	128 単位	有・無	単位

	中国語中国 文学科	128 単位	有・無	単位
	外国語学科	128 単位	有・無	単位
情報学部	情報システ ム 学科	124 単位	有・無	単位
	情報社会学科	124 単位	有・無	単位
	メディア表 現 学科	124 単位	有・無	単位
健康栄養学部	管理栄養学科	130 単位	有・無	単位
国際学部	国際理解学科	124 単位	有・無	単位
	国際観光学科	124 単位	有・無	単位
経営学部	経営学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		https://www.bunkyo.ac.jp/about/university/rules/file/file_GPAhyoukahou.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		https://		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：Web 掲載 キャンパス・施設案内 越谷キャンパスマップ https://www.bunkyo.ac.jp/campuslife/campus/koshigaya/ 湘南キャンパスマップ https://www.bunkyo.ac.jp/campuslife/campus/shonan/ 東京あだちキャンパスマップ https://www.bunkyo.ac.jp/campuslife/campus/adachi/ 主な交通手段 越谷キャンパス https://www.bunkyo.ac.jp/access/koshigaya/ 湘南キャンパス https://www.bunkyo.ac.jp/access/shonan/ 東京あだちキャンパス https://www.bunkyo.ac.jp/access/adachi/ キャンパス・施設案内 https://www.bunkyo.ac.jp/campuslife/campus/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載 事項)
教育学部	学校教育課程	847,000円	280,000円	270,000円	※2
	発達教育課程	847,000円	280,000円	270,000円	※2
	心理教育課程	742,000円	280,000円	270,000円	※1 ※2
人間科学部	人間科学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2
	臨床心理学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2
	心理学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2
文学部	日本語日本文学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2
	英米語英米文学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2
	中国語中国文学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2
	外国語学科	772,000円	280,000円	270,000円 160,000円	※2 ※3
情報学部	情報システム学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2
	情報社会学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2
	メディア表現学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2
健康栄養 学部	管理栄養学科	842,000円	280,000円	270,000円 130,000円	※2 ※3
国際学部	国際理解学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2
	国際観光学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2
経営学部	経営学科	772,000円	280,000円	270,000円	※2

※1：2020年4月学生募集停止（2019年度入学生の学納金額）

※2：その他-教育充実費

※3：その他-教育充実費

・卒業要件にかかわらず免許・資格を取得するのに必要な費用は別途徴収。

・実験・実習・演習に伴う費用は別途徴収することがある。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
学生支援方針 (https://www.bunkyo.ac.jp/about/basicpolicy/policy/) に基づき、教務委員会・教務課・教育支援課を主体に、履修に関する相談受付、成績不振者への面談、学内外の奨学金情報の収集・広報、を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
学生支援方針 (https://www.bunkyo.ac.jp/about/basicpolicy/policy/) に基づき、キャリア支援課を主体に、合同説明会の開催、インターンシップ情報の収集・広報、キャリア形成支援や就職活動準備に係る各種講座の開催、筆記試験対策講座、個別相談の対応などを行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
学生支援方針 (https://www.bunkyo.ac.jp/about/basicpolicy/policy/) に基づき、医務室・相談室・学生相談室を主体に、健康診断・面談・カウンセリング・セラピーを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：Web 掲載
教育情報等の公表
https://www.bunkyo.ac.jp/about/disclosure/publicinfo/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310102868
学校名 (〇〇大学 等)	文教大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人文教大学学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		409人	378人	422人
内訳	第Ⅰ区分	229人	216人	
	第Ⅱ区分	111人	111人	
	第Ⅲ区分	69人	51人	
	第Ⅳ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				5人
合計（年間）				5人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	5人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	2人	人	人
計	7人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	3人	人	人
GPA等が下位4分の1	60人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—	人	人
計	60人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。